

自慢の餃子づくりに子たちも一生懸命 大盛況の親子で集まれ中国家庭料理塾

食7- 広宮村 誠一



講師の李さんから餃子作りの説明に、食い入るように眺める子どもたち

2月18日(日)10時より神戸市シルバーカレッジの調理室に於いて、グループわ主催のイベント『親子であつまれ、中国家庭料理塾』が催された。参加希望者が予想外に多く断るほどの盛況ぶり、この日は16家族50人が参加された。

2家族ずつ8テーブルに分かれ、講師には李愛蘭さん(食6期)はじめ食文化コースの卒業生有志が担当した。当日のメニューは水餃子、豚そぼろ炒めのレタス包み、レタススープ、杏仁豆腐と中国の家庭料理がテーマで餃子は皮から作る本格的なもの。



“ぼくも出来るよ”とお母さんと一緒に餃子の皮つくりする親子たち

最初は全員教壇を囲み、李さんの実演を見学し、その後各テーブルに分かれて作業にかかった。強力粉をこね、めん棒を使って薄い皮を作り、別に準備した具を包む。子供たちは粘土細工気取りでほっぺを粉で白くしながら、

一生懸命こねていた。玉ねぎやキャベツを刻む作業では危なっかしい手つきの子もいたが、なかなか上手な子供さんも多かった。親子でいろいろ話しながら料理を作る光景は大変微笑ましく感じた。

12時半ごろ、各テーブルとも料理が完成し、一斉に“いただきます”の感謝の言葉で、みんなおいしそうに自分たちで作った餃子をほうばった。食後、各テーブルの代表に感想を伺ったところ、あるお父さんは「餃子はよく作るが皮から作るのは初めてだった。少し難しかったけどまた、家でやって

みようと思う。」また、あるお子様は「他の家族と一緒に作業で初めのうちはちょっと戸惑ったが、直ぐに慣れてよいお友達が出来て楽しかった。料理も大変美味しかった。」教室の中ほどで力を込めて粉を練っていた若いお父さん、日頃使わぬ筋肉を酷使したせいか肩を上下しながら「疲れた!」の一言。

明日からのお仕事大丈夫かなあーちょっと心配です。

にぎやかに村の縁日

理事 - 藪口 卓也

しあわせの村のいきいき元気まつり“わいわいストリート”が3月18日に開かれました。時おり小雪がちらつく生憎のお天気で、行楽客の足も鈍く、先行きに不安を感じました。

しあわせの村中央緑道に沿って10張りのテントの中に、折り染め、木のおもちゃ作り、紙とんぼ、けん玉、駒まわし、跳ねかえる、竹馬など昔懐かしい遊びの店が開店しました。

グループわの会員が紙ひこうきや竹とんぼを飛ばすなど、雰囲気作りに努めた甲斐もあり、徐々に親子連れが集まってきました。“一寸奉仕”の皆さんの大道芸、玉簾れには幾重もの人垣が出来るほど、にぎやかな縁日となりました。

子どもたちが竹ゲタや折り染めを手に嬉しそうな笑顔、終わり良ければ全て良し、たくさんの親子連れに“昔あそび”を楽しんで頂いた一日でした。そして約50名のわ会員皆様もカイロを懐にきた寒さを吹き飛ばす楽しい一日でした。



糸鋸を使っておもちゃ作りの親子たち

たくさんのご署名有難う

社会還元センターグループわ

郷 理事長様、小林 副理事長様

GIST治療薬「スーテント」の早期承認のご署名を多数頂き有難うございました。署名用紙は2月28日に「GIST患者の会」に発送しました。ご署名人数は7,567人と当初予想を大きく上回りました。患者の会のメンバーが厚生労働省に「スーテントの早期承認」を求めた陳情を行なったとのこと。

多くの方々のご理解とご協力を賜り本当に有難うございました。取りあえず現状報告まで。

金子 路子(福祉10期)